

子どものこころの発達研究センター



国立大学法人

浜松医科大学

当センターは、2006年、わが国の最大の課題といえる「子どものこころのひずみ」の原因と対策を、総合的視点に立って明らかにしようとする研究センターとして設置されました。

分子生物学と臨床精神医学との連携融合により、「子どものこころの発達」を科学的に解明するための新しい研究領域を創生するとともに、この研究領域を基盤とした革新的教育研究事業、すなわち「子どものこころのひずみ」を克服するための事業を展開していくことを目標、使命としています。

当センターの活動は、以下の3つの柱から成り立っています。

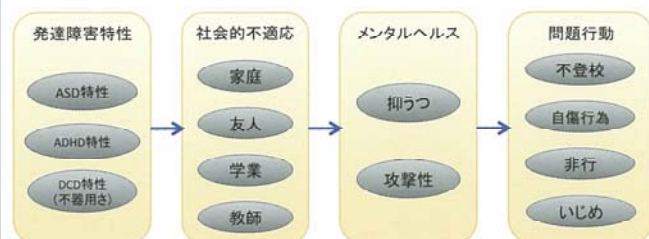
- ①**研究活動**—「子どものこころ」をさまざまな学術的角度から理解するためのパラダイムの提示。
- ②**地域支援**—「子どものこころ」を健やかに育むための実践、および実践のためのノウハウの提供。
- ③**教育**—「子どものこころ」を理解する・育む人材の育成。

当センターの強みは、この3つの活動が有機的に連携していることです。

地域支援の対象である学校や発達障害児の支援団体からの協力のもとに、世界水準の研究や技術開発の成果が当センターから発信されています。そして、当センターのスタッフは、研究と並行して全国の学校や自治体の現場で相談事業や技術支援を始めとした支援活動を精力的に行っています。また、こういった地域支援や研究活動自体が、子どものこころを扱う人材育成のための良好な教育環境となっています。

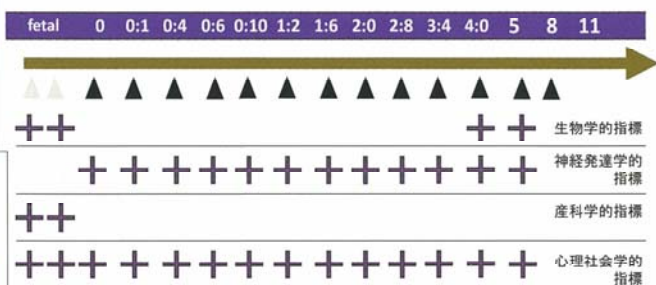
コホート研究

子どもの発達とメンタルヘルスに関する学校コホート研究



- ・ 目的:主に思春期に生じる深刻な情緒的・行動的問題の発生機序を明らかにし、予防的介入の方策を探る
- ・ 方法:A県X市の全ての保育所と公立小中学校に在籍する全児童生徒を対象とした縦断調査(年1回)を2007年度から継続実施
- ・ 成果:問題行動の前駆症状としてメンタルヘルスの低下が表れ、その背景には様々な社会的文脈での不適応状態や生来の発達障害特性が存在することが明らかに

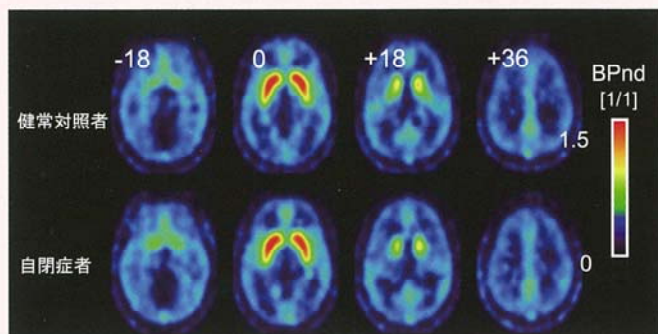
浜松母と子の出生コホート研究



◇ Tsuchiya et al., 2010 J Dev Origins Health Dis より改変

- ◇ 2007年11月より、約1200組の母子を対象に発達の軌跡を追跡調査しています。
- ◇ 自閉スペクトラム症の早期徴候と神経発達の軌跡に関する成果が得られています。

PET研究



自閉症の成人では、ドパミンD1受容体に変化が見られなかった。先行研究におけるドパミン・トランスポーターの変化はセロトニン・トランスポーター機能異常による二次的变化と考えられる。

fMRI研究



社会的な状況に即した道具使用とそれにとともなう脳血流量の変化。いわゆる「社会脳領域」だけでなく、これまで報告のなかった領域にも活性化がみられた。

早期診断研究



GazeFinder (Ka-o-TV)による発達評価の試み。社会認知の評価系に加え、新たに不注意の評価系の開発を進めている。

主な社会貢献活動

- 福島県の児童生徒に対する震災後のメンタルヘルス支援
- 発達障害児サマーキャンプ、発達障害者支援の地域ディレクター養成（NPO法人アスペ・エルデの会との共同）
- 支援の必要な子への早期介入と教育的配慮に関する提言（地方自治体教育委員会との共同）
- 浜松市立の全小学校児童のメンタルヘルス調査、教員研修・支援（浜松市教育委員会との共同）
- 静岡県子どもの精神保健フォーラムの運営保健師、保育士、幼稚園教師、心理職、教職員、児童相談所職員を対象とした発達障害児への対応についての研修



福島県内の小学校におけるメンタルヘルス向上のための授業の様様



発達障害児サマーキャンプにおけるキャンプファイアの様様

【アクセス案内図】



【配置図】



浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター
Hamamatsu University School of Medicine, Research Center for Child Mental Development

TEL : 053-435-2331 FAX:053-435-2291 URL : <http://rccmd.org/>



国立大学法人

浜松医科大学